



2017年3月16日 No.12
全日本建設交運一般労働組合 中央本部

建交労

2017年春闘・月間推進ニュース

2017年春闘勝利へ

春闘本番 勝利にむけ前進

2017春闘がたたかわれる中、3月12日に大阪・兵庫において、自動車パレードがとりくまれました。

★大阪 生コンなど100台でパレード

大阪では、関西支部と関西ブロック生公連共催でとりくみました。

パレードに先立ち大阪市此花区の舞洲空の広場で総決起集会が開催され、組合員・家族をはじめ約200人で氣勢をあげました。

パレードは、生コン車・トラック・ダンプ・ポンプ車など100台の隊列で出発。

ナンバ高島屋前では、パレードに呼応した大阪建設共闘の仲間たちの宣伝行動と行きあい、お互いにエールを交換しました。



★兵庫 神戸市街を進む48台の隊列

兵庫では、神戸市中央区のポートアイランド・コンテナストックヤードで決起集会（参加者110人）を開催後、午前11時にパレードに出発。

赤いダブルアーチ型の神戸大橋を渡り、48台の隊列は神戸市街地へ。神戸市役所、三宮交差点を走行し、加納町交差点の流れ解散地点まで市民に大いにアピールしました。



消費税廃止・共謀罪反対などを掲げ

宮城 重税反対行動集会に 150 人

3・13 重税反対全国統一行動・宮城中央集会は、建交労の仲間を含めて約 150 人が参加し開催。

集会では、小野寺義象弁護士（一番町法律事務所）から共謀罪の内容・危険性について記念講演。

また、県労連から労働法制の改悪、年金者組合から年金裁判、農民連から農協つぶしと食の安全などのたたかいに関する報告と決意表明がなされました。

集会後、仙台市内をデモ行進。民商の仲間は、仙台北税務署と仙台中税務署へ一斉申告書提出をおこないました。



団体交渉後に 1,200 枚のチラシを配布

PA では長距離運転手と対話に

近物レックス支部の常任交渉団 6 名は、3 月 14 日の午前中に会社と 2017 年春闘の団体交渉を行い、春闘勝利とトラック労働者の労働条件改善を目的に、午後からティッシュペーパーなどを使った宣伝を実施。県営・市営住宅が並列されている今沢団地で約 1,000 枚のビラをポスティングした後、東名・愛鷹パーキングの上下線でトラックドライバー向けに全国トラック部会のビラとティッシュ 200 部を配布しました。

青森から走ってきた長距離ドライバーなども休憩していて、トラックドライバーの労働条件改善などの対話をしながら、「事故に気を付けて頑張ってください」とドライバーを激励してきました。

また、全国トラック部会の統一宣伝日である 4 月 6 日には、支部執行委員が在籍している 19 の職場でも連合系労組の組合員や他社のドライバー向けにティッシュペーパーを配布することも計画し、静岡トラック部会でも、4 月 6 日は終日宣伝カーで静岡県東部での宣伝行動にとりくむ予定です。



全国の国民大行動から

大阪・札幌で安全なJRを求めて

全国統一行動日の16日、西日本鉄道本部は大阪市・JR天王寺駅前の早朝宣伝（11人参加）と、梅田にあるJR本社前で決起集会を開催しました。

昨日、JR西日本会社からの有額回答が出されましたが、ベースアップ・賞与とも昨年を下回りました（750円、年間5.44）。決起集会では、大阪労連・建交労近畿・建交労大阪の代表の方が挨拶。内部留保を活用して大幅賃上げを、非正規ではなく正社員化で、労働者の働く尊厳と生活改善を勝ちとろうと訴えました。

集会ではJR西日本本社前に向かって、「JRは安全・サービスの向上を！共謀罪断固反対！安倍自公政権打倒！稲田大臣は辞任しろ！」等の要求を掲げ、参加者全員で、シュプレヒコール。なお、この集会には支援の仲間も含め22人が参加しました。

北海道鉄道本部は16日、賃金引き上げの要求を掲げて全国で決起したたかっている仲間に連帯するとともに、政府に「JR北海道の鉄路を守れ！」と訴える宣伝行動にとりくみました。

当日は昼休み時間帯に小雪が舞い散る札幌駅南口広場で、組合員17人が参加し、チラシを折り込んだポケットティッシュ1000個を配布。

その他にも、札幌地区労連がとりくむ春闘統一行動の「暮らしをまもる札幌総行動」に参加し、出勤時ターミナル宣伝、退勤時の集会とデモに参加する終日行動を展開。

賃金底上げと雇用の安定、地場産業振興で地域の活性化を求め、地域の仲間の皆さんと一緒にたたかいました



西日本鉄道本部と大阪の仲間たち



札幌駅前での奮闘を終えた
北海道の仲間たち

全労連共済福島支部の運営委員も努め、

組合員が共済を身近にするには組織加入をすること

2013年頃に全労連共済福島県支部が結成され、私が建交労県本部の運営委員を務めることになりました。私はなんとか組合員に身近な共済とすること、更に組合の新たな魅力にもなるのではないかとということで、県本部執行委員会で議論し、県本部財政で予算化して組織加入共済に入ることになりました。予算額と高齢者も多いため、2016年9月1日から慶弔火災型2口・503人で加入しました。

組織共済・入ってよかった

加入2ヶ月で火災水損による被害で十萬円の共済金が給付

福島市内の市営住宅に暮らす農林支部共済で加入したSさん、昨年11月末火災がありました、火災は住宅の2階で発生しましたが、この部屋の下の一階に住んでいたのが組合員Sさんでした。

この被害を知って、さっそくSさん宅を訪ねたところ、消火による部屋と家財の水損で引っ越さざるを得ない状況でした。Sさんの場合、残念ながら火災保険は一切入っていないと途方にくれていました。

さっそく9月に加入した慶弔火災型の共済申請書に、現場被害の写真などを添付して申請したところ、2月1日付けで半焼・半壊十萬円の共済金が給付されました。受け取ったSさんは、予想しなかった共済金の給付に大変感激していました。私も、慶弔火災型に入ったものの、使うことは無いのかなと思っていました。役に立て喜んでもらえたことは、大変うれしく思います。また、1月23日には、組織共済加入金の8割が活動費で振り込まれました、これも組合の財政活動として、その有効性を実感しています。



福島農林支部 加藤典夫